

Ikiiki
Maebashi
Jin



映画看板を制作
北村 勝英さん・80歳
六供町

映画のシーンを一枚の絵に

今年23日まで前橋プラザ元
気21・2階連絡通路で展示さ
れている映画看板を制作した。
印刷した看板が主流の今、
手描き看板はどこかノスタル
ジックな雰囲気を感じさせる。
北村さんが映画看板の制作
に携わるようになったのは18
歳の頃。当時映画看板を制作
していた人に弟子入りした。
「小学生の頃から映画が好
きで、よく芸能雑誌に掲載さ
れていた映画の写真を、見よ
う見まねで絵にしてみました。
だから、それを仕事にするこ
とは自然な事だったんです」

最盛期には、一カ月で約20
枚の看板を手掛けた。当時は
県内に仲間がたくさんいたが、
現在では数人しかいないと言
う。制作する機会は以前に比
べて少なくなってしまうと思
うが、映画看板に対する思
いは今も変わらない。
「制作中は時間がたつのを
忘れてしまいます。絵は紙を
濡らし、にかわに溶かした顔
料で描くのですが、人の顔は
乾くまでの30分間で仕上げな
ければなりません。その後の
仕上げでは10日以上かかる場
合もあります。でも、集中し
ているとあっという間ですね」
手描き看板の魅力は、複数
のシーンを一枚の絵にできる
こと。今後描き続けたいと
語った北村さん。見る人を懐
かす映画の世界にさまざまな
てくれるような作品を、これ
からも披露してほしい。



この連載では、市民に寄稿
してもらい、さまざまな角度
でアーツ前橋を紹介します。
第8回は、「豎町スタジオ」を
拠点に滞在制作を行ったア
ーティストの片山真理さんです。

滞在制作は喜びの連続

片山 真理さん・27歳

「制作は生活です」と言っ
ていた私にとって、建物を制
作と生活の場に分けることは
初めて。とても不安でした。
まして女の子一人で、両足義



足の私を豎町スタジオの第一
号アーティストに招くとは、
アーツ前橋はなんてアバンギ
ヤルドなのだろうとも。
しかしそんな心配は無用。
商店街の人たちなど多くの
人に支えてもらい、一カ月の滞
在は制作も生活も非常に充実
したものでした。ほぼ毎日通
っていたレストランやパン屋
さん、飲み過ぎた深夜に温か
く迎えてくれたラーメン屋さ
ん（食べ物の話ばかりですね）。
もちろん、前橋の「アート」
パワーにも驚きました。商店
街をふらりと歩けばどこかに
アートがある。毎日、どこか
で何かが生まれている、動き
出している。非常に刺激的で
うれしい日々を送れました。
それから、スタジオに戻っ
たとき、「おかえり」「ただいま」
とあいさつできたのはとても
うれしかったです。
2月には音楽のプロジェクト
で豎町スタジオに滞在しま
す。また「ただいま」と言え
る日が近付いているかと思
うと、クリスマスもお正月も通
り越してワクワクしています。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144



前橋市の魅力を発信

11月26日に前橋市シティセ
ールスを東京都で開催しまし
た。NHK大河ドラマ「花燃ゆ」
をテーマに、ドラマと関連した
前橋市の歴史・文化などを紹
介。また、萩市や防府市などと
連携し、パネルディスカッシ
ョンや観光・物産のPRを行いま
した。



発表を通じて社会課題を共有

11月30日、前橋プラザ元気21で「手をつ
なごう地域・NPO・企業パートナーシップ
のチャンス！」を開催しました。企業やNPO
など28団体が、社会課題への取り組みなど
を発表。参加者は、各団体の課題を共有し、仲
間づくりや支援の輪を広げました。



伝統的な建築物を繊細に再現

11月22日、若葉高等学園(苗ヶ島町)で赤
城型民家のジオラマの寄贈を受けました。こ
の作品はボランティアで学園の木工部を指
導している長谷川さんが寺内教諭と共同で制
作したもの。今後、多くの人たちに見ていた
けるように有効活用していきます。